

■甦れ釜石！甦れ仙台！

チャリティジャズライブ出演者紹介

・高谷秀司

プロローグ／ギター演奏

1956年大阪生まれ、ギタリスト。1985年に渡米後、ラリー・カールトン、デューク・ジョーダンらと共演。2002年にマサ大家とソウルメイツを結成し、ヨーロッパ、アメリカツアーを経て、ジャンジャック・ミルトゥー、ポール・ブラウンらと共演。シドニーオペラハウス「日豪交流年・ジャパンフェスティバル」、フランス大使館後援の「音楽の祭日」、東京藝術大学120周年記念「ジャズin藝大」などでも公演し好評を博した。人間国宝山本邦山を迎えた「大吟醸」や、デビッド・マッシュズとのアルバム「G2 NewYork Recordings」など幅広く活動する。2010年1月にはLAにて、世界最大の楽器ショーNAMMに出演。5月にはオーストラリアツアー。そして7月G2usとして和をテーマに童謡をカヴァーした「ふるさと～mother place」をリリース。斬新な手法と繊細かつ大胆な音楽表現は、ヨーロッパ・アメリカを始め世界中の観客を魅了し続けている。

・高橋里実(AS)

東京都葛飾区に生まれる。幼い頃、鍵盤の色がピンクや水色などカラフルな色合いの、1オクターブくらいの小さなオモチャの電池ピアノで好き勝手に音を出して遊んでいた記憶があります。

7歳からピアノを習い始める。

上野学園中学校音楽コースに進学（ピアノ専攻）。1年生の春、1度目の運命の出会いが！友達の付き添いで行った吹奏楽部の入部説明会。入部希望者の新入生の女の子達にはフルートやクラリネットが大人気。そんな中、不人気だったサクスを勧め る先輩の大きな声が出て、そちらを見た私の目に飛び込んできたのは、窓際で先輩の手で高く掲げられ、日の光を浴びてキラキラ光るサクス。その瞬間、入部 を決めていました。今思えば「一目惚れ」ですね♪ サクス浸りの日々始動。

上野学園高等学校音楽科（ピアノ専攻）に進学するも、サクス熱一向に冷めやらず。「大学での専攻はピアノではなくサクスで」と願う私に立ちはだかったのは、上野学園の音楽科にはサクス科が無い事実。一貫教育方針の学園でしたが、サクスをいっぱい吹きたくて、外部受験を決意。

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科(サクス専攻)に進学。須田寔氏に師事。2年生の秋、2度目の運命の出会いが！偶然、耳にしたBill Evans(p)の『Waits For Dabby』の美しさに感動。これがきっかけでJAZZを聴き始め、そしてJAZZの魅力を知ることとなる。JAZZ浸りの日々始動。

同大のサクス科を首席で卒業後、ヤマハポピュラーミュージックスクール講師等を経て、プロ活動始動。現在、女性16人によるビッグバンド『BLUE AERONAUTS ORCHESTRA』、『江古田勉強会ビッグバンド』でリード

アルトを担当する他、リーダーとして『六本木サテンドール』に出演するなど、都内ジャズクラブを中心としたライブ活動にも精力的に取り組んでいる。

故・松本英彦氏、土岐英史氏、須田寔氏に師事歴あり。アルル音楽学園・ジャズコースのサクス講師も努めている。

・臼澤茂(TP)

岩手県釜石市出身

1980～83年「宮間利之&ニューハードオーケストラ」のメンバーとしてNHK、TBSの音楽番組にレギュラー出演。84～85年「森寿男&ブルーコート」等を経て、「バイソン・バンド」のメンバーとして88年スイスのモントリオールジャズフェスティバルに出演。その後、自己のバンドで活動するほか、「松尾明& テイクオン」を中心に六本木や銀座のライブハウスなどでライブ活動を続ける。また、94～96年、ラプリー音楽学院の講師として、後進の指導にあたる。現在、自己のバンド「ジェイソン臼澤&パワーバンド」で都内のライブハウスを中心に活動しているほか六本木「パードランド」にレギュラー出演中

・市川秀男(P)

1945年2月に静岡県に生まれる

小学校時代よりピアノをはじめ中学3年の時に上京し国立音楽大学付属高校に入学し作曲などを学ぶその後プロのミュージシャンとして活動を開始する

1966年 『ナウズ・ザ・タイム』でレコーディング・デビュー。同年12月、ジョージ大塚トリオに参加。1970年 この年は、4月、都市センターホールでジャック・デジョネットと競演、6月には初のリーダー・アルバム『ホリデー』を録音、10月、日野皓正グループに参加。1972年 ジョージ大塚トリオを脱退。中川幸男 (b)、小津昌彦 (ds) とともに自己のトリオを結成する。1976年 ジョージ川口率いるザ・ビッグ・4に参加。1979年1月 ダイレクト・カッティングにより録音、『ダイレクト・ピアノ』1980年 富樫雅彦、鈴木勲とともに3者「トリニティ」を結成。同グループは『ワンダー・ランド』『微笑み (スマイル)』のアルバム2枚をリリース。1999年 クレセントスタジオでネットワーク配信のための新作を録音。現在でも音楽分野で新しいものに挑戦しつづけている。

秋田県生まれ。16歳の時、音楽の世界へ。74年渡辺貞夫カルテットでデビュー。翌年には日本代表として、スイスのモントルー・ジャズ・フェスティバルへ出演、大好評を博す。師である渡辺貞夫からは、仕事よりも遊びをまじめにやる事の大切さを学ぶ。

◆ 77年八城一夫氏の名盤「サイドバイサイドアゲイン」に参加。

◆ 79年から5年間、世良 譲トリオにて活躍。

リーダーアルバムは「ジャンプフォージョイ」「ディアオールドグッドウィン」「ミスターダブルベース」。ジャズ

の参加レコーディングは優に200を超える。ポップス・ニューミュージックの人気アーティストのアルバムにも多数参加。その顔ぶれは夏木マリ、クレモンテ ィーヌ、中島美嘉、大江千里、稲垣潤一、コーザ・ノストラ、ムッシュかまやつ、和田アキ子、hiro、akiko、SMAP、、等他、実に多彩な顔ぶれ。近年では自己のレーベル「(株) JAH!JAH!JAH! records」の代表プロデューサーも務め、作曲・編曲も多数手掛けている。ピチカート・ファイブ小西康陽プロデュースの東京クーレストコンボの ベーシストでもあり、映画では山田洋次監督の「男はつらいよ」シリーズの最後の作品まで20作余の音楽制作に参加している。

多彩な音楽キャリアと領域を誇る河上だが、アーティストとして今一番心の芯に燃えているものは、“ジブシージャズ”への熱い思いだと言う。形式ばらず、格好もつけず、そこに音楽を聴きたい人がいれば街角の路上でもウッドベース一本 でリズムを弾き出す。そのパルスが、聴く人の体を揺らせ、口笛を吹かせ、笑顔を作る。「過去でもなく未来でもなく、今この瞬間に集い会っている喜びを共有したい・・・」。40年を経て、河上 修の世界はますます味わい深くなる。

・守新治(DRUM)

1953年3月21日 宮城県仙台市生まれ 牡羊座 A型

18才で上京プロ入り。上京後すぐに、渡辺 貞夫カルテットのリズムキーパーとして抜擢され、7年間在籍
*日本のほとんど全てのミュージシャンと共演。松本英彦グループ、今田勝トリオ、宮沢明カルテット、稲葉国光グループ、西条孝之介、山本剛、福村博、秋吉敏子、ヘレンメリル、ミッシェルヘンドリックス、ミッキーカーティス、マリーン、日野皓正、前田憲男、鈴木勲、高橋達也、など数多くのミュージシャンと共演して現在に至る。
*国内外の多くのコンサート、ジャズフェスティバルに出演。スイスモントルー、インドジャズヤトラ、ライブアンダーザスカイ、ジャカルタ、ホンコンハイアットジャズ、ドイツデュッセルドルフジャズラリー、長野オリンピックスペシャルライブ。
*Tokyo FM -資生堂My dear life- 7年間レギュラー出演。
*音楽ジャンルを問わないドラムスタイルは、幅広いミュージックシーンで活躍中。
リーダーアルバムCD Sweet panpukin (1989')発売、その他 サイドメンとしてのレコード、CDは50数枚 に及ぶ。
ディスコグラフィー制作中。
2000年を機に自己のバンドを起動しました。

東日本大震災 チャリティージャズライブ「甦れ釜石！甦れ仙台！」

2011.5月7日(土)18時開場
18時30分開演～21時閉会
■会費3000円(1ワイン付)
■会場 求道会館
113-33 東京都文京区本郷6-20-5
☎03-6804-5282



■主催・申込み受付
motherboard2011
甦れ釜石！甦れ仙台！支援集団
(世話人・丸谷博男)
fax03-5431-6031 または mail/ h.maruyas@a-and-a.net
■後援・新建築家権者集団東京支部-http://www.shinken-tokyo.org/
■ワイン・日本酒提供/japan import system 小澤酒造株式会社
■「求道会館」とは
常信・宗教改革者の近角常暢が、自らの宗教体験を青年学生と連食を共にしながら語り継ぐ場として設立したのが「求道学園」です。その敷地内に、この「求道会館」は建てられています(共に此庄五一の設計)。内部は椅子式、ハンマービームトラスの小屋根、裏面に窓らせたギャラリーと、キリスト教会風の空間構成ながら、そこに六角形の扇子を壁から突出させ、また、祀火棟の屋根を配して伝統的仏和風建築の要素を併存させるなどして、特異な空間をつくっています。この集居性は、創設者・近角が創設した仏教復興の革新性と関係しています。

今、一番大切な事は

生活を形づくる事。
そうすれば、

明日への意欲が湧いてきます。
避難所から仮設住宅への移転。
その事により家族が一軒家に住み団欒が生まれます。

今、一番大切な事は

道と電気が通り、水道と下水が使えることになれば日常が戻ります。
しかし、津波はその道さえも破壊してしまいました。
まだ、時間がかかります。

今、一番大切な事は

暮らしがあるということは、住む家と働きのあるということ。
人間に必要なものは何か。
それは、糧と汗です。
それが、幸せの原点です。

今、一番大切な事は

家と家族、そして近隣の知り合い。それは、土地に結びついてきました。
地域の歴史も文化も土地無しには存在しません。
遠い自治体が受け入れの体制をつくり被災者を迎え入れようとしてました。
しかし、望んだ人はほんのわずかでした。
遠い仮設住宅へも希望者はほんの少でした。

今、一番大切な事は

農業者は、田畑を海水とヘドロに奪われてしまいました。
漁業者は、港を失い、船も失い、日常に戻った海を呆然と眺めています。
いずれも、高齢者の多い生産地三陸の再起への道は、大変厳しい現実があります。

今、一番大切な事は

春の訪れとともに花咲き、萌え上がる新芽の息吹です。
明日をつくり担う子ども達と青年がいる限り、成

長しまた、花咲かせて行くのです。

今、一番大切な事は

熟年の力です。
日本をつくり上げて来た原動力をもう一度、再起動しましょう。
子ども達や青年のために、道づくりをしましょう。

日本の道をつくるのです。

■ NPO 法人
motherboard2011 日本の道
設立趣意書

2011年3月11日に日本を急襲した「東日本大震災」は、日本の現代社会のあり方に、衝撃的なアンチテーゼを国民一人一人に突きつけました。
地震、津波、原子力発電、そして電力に依存した電力高消費社会、これらの問題提起は、一点の課題に起因して行っていました。それは、地球環境との共生です。
これまでも地球規模で温暖化が急速に進み、地球規模での対策が必要とされてきました。
しかし、真剣に生活を変えようとする人間や社会は皆無に等しかったと言わないではられません。
その甘えた構造を「東日本大震災は」一人一人に、心の底から変革することを思い起こさせたのです。
当法人は、この時代変化に応えるべく、生活とその営まれる場、そして地球との共生を実現するために可能なことを、知恵と技を共同することによって、実践して行こうと設立するものです。

日本には日本らしい大地と風土があり、そこで培われた心があります。
そして、地域には、その地方独自の風土と暮らしがあります。
全ての活動はそこに立脚し、豊かなコミュニティと生活を育み気づいて行きます。また、地球と共生する災害に強い町を形成し、安心して暮らせる基盤をつくって行きます。

今、考えられる課題と目標は以下の通りです。

- ・海、川、平野、山林など日本独特の自然豊かな共生型のまちづくりを提案し、実践する。
- ・自然の恵みを育て、活用した経済活動と暮らしを提案し、実現する。
- ・自然エネルギーを活用した省エネルギーの建設と維持管理を実現する住宅と町を提案し、実現する。
- ・100年、200年、300年と長持ちし、暮らしとともに変化できる住宅と町を提案し、実現する。
- ・犯罪に危険や、交通事故など、そしてアトピーやシックハウスのない健康な暮らしと住宅、そして町を提案し実現する。
- ・ゴミやエネルギー、資材など循環型の社会を提案し実現する。
- ・暮らしとコミュニティに欠かせない福祉は、これらあらゆる活動のベースにあるものとして活動をすすめる。

このような課題に応えるため、ものづくりとデザインを進めると同時に、ものづくりの動機となる心を自ら学び、啓蒙し、教育し、普及することを同時並行で進める活動が、当法人の一番大切な活動の原点と考えています。

特定非営利活動法人 motherboard2011 日本の道 入会申込書

特定非営利活動法人 motherboard2011 日本の道 御中

私は、特定非営利活動法人 motherboard2011 日本の道の活動に賛同し、会員の申し込みをいたします。また、入会後は本法人の規約に即して活動することを約束します。

個人名 もしくは担当者名	ふりがな		
団体名 (団体会員の場合)	ふりがな		
住所	〒.....		
連絡のつく 電話番号		FAX 番号	
メールアドレス	@		
正会員/賛助会員/法人会員の該当するものに○をつけてください			
会費の額	正会員(個人)	入会金 10,000円(初年度)	年会費 5,000円 合計 15,000円
	賛助会員	入会金 5,000円	
	法人会員(団体)	入会金 100,000円(初年度)	年会費 50,000円 合計 150,000円
申し込み年月日	平成____年__月__日		
* 一度納入された入会金、年会費は、返却いたしかねますのであらかじめご了承ください。 * 入金を確認された時点で、正式に会員となります。 * 年会費の有効期限は毎年3月31日までとなります。			

お申込方法	① この申込用紙にご記入いただき、PDF か郵送でお送り下さい。
	② 会費を下記口座にご入金ください。
	【送付先】 〒150-0033 東京都世田谷区代田3-48-5 特定非営利活動法人 motherboard2011 日本の道 FAX 03-5431-6031 E-mail h.maruya@a-and-a.net
	【入金先】 口座名 丸谷博男 三菱東京UFJ銀行大泉支店(142) 普通口座 42143

ふるさと

作詞／高野辰之

作曲／岡野貞一

うさぎ

兎 追いし かの山

いか

如何にいます 父母

こころざし

志 を 果たして

こぶな

小鮒釣りし かの川

つつが

ともがき

恙 無しや 友垣

かえ

いつの日にか 帰らん

夢は今もめぐりて

雨に風につけても

山はあおきふるさと

忘れがたき ふるさと 思い出ずる ふるさと 水は清き ふるさと

株式会社ボナール 御中

貴社が所有されている「本郷館」は、明治 38 年の創建以来、多くの有為な人材を止宿者から輩出し、現在も日本随一の学術地区である本郷界隈のシンボルとして、多くの人びとから親しまれ、愛されています。また、明治時代に建設された大規模下宿屋の最後の現役建造物として、その卓越した文化的・学術的価値は広く社会に認知されています。これもひとえに、貴社が長年にわたり、「本郷館」の維持・管理にご尽力くださった賜でございます。もし貴社が「本郷館」を存続させてくだされば、この歴史を後世に伝えることができます。

この建物の歴史的価値や希少性と、現代の改修技術をもってすれば、建物の安全性の向上や貴社の資産活用面における収益性の確保と、失われたら二度と戻らない文化的資源の保護の両立は可能です。そのために、技術的・資金的な面等でお役に立ちたいという声も、本会のもとに複数届いております。

上記の趣旨を理解いただき、「本郷館」の改修による維持活用を、貴社の事業計画の俎上に載せることをご検討いただきたく、以下賛同者の連名をもってお願い申し上げます。

お願い

1. 本郷館の建て替えを中止してください
2. 歴史的な建物の活用に詳しい専門家のアドバイスを受け入れてください
3. 地域の資産として活用してください

名前	住所

※個人情報適切に管理し、他の目的では使用しません。

【締切】平成 23 年 5 月 13 日 (金)

【署名回収先】

メール (word ファイルデータ可) もしくは郵送、FAX にて下記宛先までお送り下さい。

〒110-0001 東京都台東区谷中 6-2-42-201 「本郷館を考える会」

メールアドレス : hongoukan@gmail.com FAX : 03-3822-7275

ホームページ : <http://www.hongo-kan.com/>